

中美研会報 No. 147

2023.3.3 中越美術教育研究会 事務局／長岡市豊詰町227 長岡市立上組小学校 〒940-1142 ☎(0258)22-0959

今年度の活動を振り返って

中越美術教育研究会 会長
目黒 由美



1月に開催した中越教育美術展の会場で、作者数名と偶然出会うことができました。「これは、私の大好きな色」「どうやっておしゃれに描こうか、いっぱい考えて、その時間がすごく楽しかったんだよ」…。展示されている作品の前で、保育園、幼稚園のお子さんたちが、作品に表現した自分の世界について、誇らしげに自分の言葉で話してくれる姿が、まぶしく心に焼き付いています。

私たちの研究会は、造形美術教育を通して、子どもたちが自分らしさを伝え合い、豊かに健やかに生きる力を育むことを願い、活動を推進しています。前述したような、のびのびと自分の感じたことを安心して表現できるような教育現場が広がっているのであれば、本当にうれしく思います。

アートには、生きる力を培う多様な可能性、さらにここ数年新型コロナウイルス感染症に翻弄される状況にあって蔓延する閉塞感を打開する力もあると信じ、今年度も、研究部、美術振興部(展覧会委員会、広報委員会)、教職員展部がそれぞれ真摯に取り組んでまいりました。

8月に開催した「夏季研修会」においては、県内の幅広い校種の70名近い参加者が集いました。「子どもを笑顔にする授業の種」をテーマに掲げ、ICTの活用が注目される今日ですが、研究部は、「アナログ」のよさを実感できる題材を提案し、参加者は身体感覚を駆使した制作の楽しさに浸りました。「高いコストパフォーマンス」の観点からも、実践につながる有意義な実技研修となりました。

11月の関プロ新潟大会においては、当会会員が「表現と鑑賞の一体的指導」を追究した第6学年での実践を発表し、他県の参加者からも関心を寄せられ注目されました。

11月から12月にかけて、「中越教育美術展審査会」を行い

ました。県内各地からの応募作品約2万1千点を、第1次審査会、第2次審査会を設け、時間をかけて審査いたしました。一枚の絵から、私たちは多様なことを学び、考えさせられます。この1枚が生まれるまでの過程、そこに息づく子どもたちの日常生活、子どもたちを育てている地域性、子どもと指導者との関わり等々。固定的な見方や指導に縛られることなく、目の前の子どもの姿を見つめるように、柔軟に、しなやかな感性をもって審査することが、未来へ向かう教育にとって大切にしていくべきものと考えています。二次審査会では、大学の先生方の作品を通してその子を見つめようとする眼差しに多くのご示唆をいただき、研修を深めることができました。

1月には、アオーレ長岡を会場に、受賞作品の展覧会を開催しました。作品と一緒に写真を撮る受賞したお子さんたち、魅力あふれる作品の数々に瑞々しい眼差しを向けて鑑賞する幼児から高齢者までの幅広い来場者。アートが心を潤し、生きるエネルギーとなるものであると、展覧会の意義を改めて実感いたしました。

教職員美術展は、2月には新型コロナウイルス感染状況に鑑み中止いたしました。5月に開催することができました。この時期の開催は初めてでしたが、教職員展部員の尽力により、ご退職された皆様や小・中・高の教職員の方々の力作58点を展示し、一般市民の皆様から春の日の一日、美術鑑賞に浸ってもらいました。

3月には、「中越教育美術展作品集 第32集」を刊行し、この「会報」を発行しました。

会員の皆様のご尽力のお陰で、充実した取組ができましたことに、心からお礼申し上げます。

事業の開催にあたっては、新潟県教育委員会や長岡市教育委員会からご後援をいただき、また新潟日報社、報道機関各社、新潟県教職員厚生財団、日本教育公務員弘済会新潟支部から多大なご援助をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

令和4年度 中越美術教育研究会 事業内容

●第1回 理事会

・令和4年5月25日(木) 上組小学校
会務決算報告・予算事業計画審議等

●「中越教職員美術展2022～第28回～」

・会期 令和4年5月11日(木)～15日(日)
長岡市美術センター

●「第55回 夏季研修会」

・令和4年8月1日(月)
葛巻地区ふるさとセンター

●第1回 美術振興部会

(中展委員会・広報委員会)
・令和4年8月30日(火) 上組小学校
審査会計画・作品集・会報原稿依頼等

●中越美術教育研究会会員の実践発表

・令和4年11月11日(金)
長岡市教育センター

第61回関東甲信越静地区造形教育研究大会 兼 第34回新潟県美術教育研究大会において校種別分科会提案③にて発表
提案者 堀田 祐嗣 川崎東小学校
助言者 津端 朝宏 黒条小学校
司会者 村山 裕之 十日町市立中里中学校

●中展展一次審査会

・令和4年11月25日(金) 上組小学校
審査員30名

●第2回 中展展委員会

・令和4年12月2日(金) 上組小学校
展示等計画

●中展展二次審査会

・令和4年12月2日(金) 上組小学校
群馬大学 教授 林 耕史 様
上越教育大学 教授 五十嵐史帆 様
東京学芸大学 准教授 西村 德行 様

●第2回 広報委員会

・令和4年12月2日(金) 上組小学校
中美作品集計画

●「第58回 新潟県中越教育美術展」

・会期 令和5年1月13日(金)～15日(日)
アオーレ長岡(市民交流ホールA)
・特別授賞式、作品解説会は感染症拡大防止の観点から中止

●第3回 広報委員会

・令和5年2月17日(金) 上組小学校
中美作品集の校正

●役員会

・令和5年2月20日(月) 上組小学校
各事業の反省と次年度への提言

●「第58回 新潟県中越教育美術展・作品集」刊行

・作品集 第32集 発行
・中美研会報 147号 発行

第55回 夏季研修会報告

「子どもを笑顔にする授業の種」



研究部長 燕市立燕西小学校 堀 和宏

【講師】 井口 かほり（魚沼・小出中学校）、齊藤 博文（見附・西中学校）

【日時】 令和4年8月1日(月) 13:30～15:30

【会場】 見附市 葛巻地区ふるさとセンター

【参加者】 65名（県内小中学校、特別支援学校、幼稚園・保育園より）

【研修内容】

今年度は、「子どもを笑顔にする授業の種」と題して、色や形の面白さで子どもを引きつける二つの題材について提案しました。

どちらの題材も、「きれいな色合い」「コンパクト」「高いコストパフォーマンス」がキーワードです。

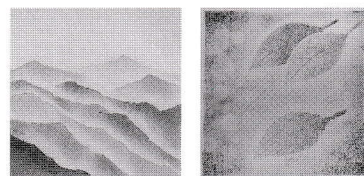
まず、「きれいな色合い」。着色の仕方や重ね方などで偶然生まれる色合いを楽しんだり、色の配置による面白さや美しさを味わったりすることができます。

次に、「コンパクト」。省スペースでコンパクトな作品であり、短時間で取り組めるため、完成後の鑑賞活動の時間を充実させることもできます。題材をアレンジすれば、大きな作品として制作することも可能です。

そして、「高いコストパフォーマンス」。扱いやすい材料や素材であることはもちろん、全て100円ショップで購入可能です。材料や素材の使い心地を何度も試したり楽しんだりしながら、気軽に表現することができます。

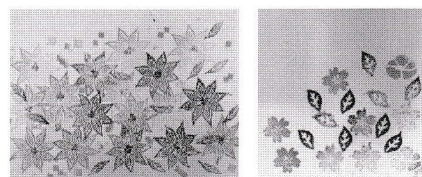
【授業の種①】「パステルアート」

パステルを削って粉状にし、ステンシルの要領で着色しました。着色の方法や型紙の使い方などを段階的に体験しながら制作を進めたことで、色の塗り方や重ね方などで生まれる陰影やグラデーションの美しさを味わうことができました。



【授業の種②】「消しゴムスタンプ」

消しゴムを彫って作った版でスタンプをしてイメージを表しました。中学生の作例や資料をもとにイメージを膨らませたり、制作途中の版でスタンプを試したりしながら、版の位置や数、色合いや重ね方などを工夫することの面白さを実感することができました。参会者同士で版を交換したり組み合わせたりして、対話しながら表現を楽しむ様子も見られました。



GIGA スクール構想の影響により、美術教育の研修でも ICT を活用した「デジタル」の題材が多く見受けられますが、今回提案したどちらの題材も、身体全体の感覚や手触りをもとに、形や色と豊かに関わることができ、いわゆる「アナログ」の題材のよさや面白さを提案できたと考えています。

また、短時間で制作できること、すべての材料が100円ショップで揃う安価なものであること、子ども同士の交流や協同的な表現活動を促す題材に発展できることなど、「授業の種」として、参会者が勤務校園で実践しやすいように工夫して提案したことも好評でした。

参会者からは、「子どもの立場で制作を体験でき、題材のよさや楽しさを味わうことができた」、「段階を追って体験でき、授業実践へのイメージができた」、「実技を通じた研修を今後も続けてほしい」などの感想が多くあり、ニーズに合った研修内容であったと考えています。今後も、図工・美術を通して子どもの感性を育む教育活動を展開していくための「種」となるような研修を実施していきます。



楽しい消しゴムハンコ

見附市立西中学校 斉藤 博文



今年度の中美研修会は、「他の地区がおそらくタブレットを使ったデジタル研修をやるから、あえてアナログでいこう」という研修部の考えで、実技研修二本立てとなりました。

私が担当したのは「消しゴムハンコ」です。見附市立西中ではこの3年間、中1の授業で毎年取り組んでいます。テレビ番組でもおなじみの題材ですが、実際に授業で取り組んでいる方は意外と少ないかもしれませんね。私が取り組んだきっかけは市内のある中学校の先生の消しゴムハンコの実践です。それを見て「やってみようかなあ」と思っていたのですが、その先生が県外に転出されると聞き、「見附市から消しゴムハンコの灯を絶やしてはならない、私が引き継ごう！」と決心して題材としました。

そして、授業でやってみると、大変楽しく「なぜもっと早くやらなかったのかなあ」と後悔しました。

その理由は、①トレーシングペーパーでハンコの形を写し取るので、形を描くのが苦手な生徒でもできる。②そのようにしてたったひとつの単純なハンコさえできれば作品として成立する。③しかも、単純なハンコでも押し方・色の使い方で素敵な作品となる。ということです。「試し押し」が面白くて、生徒たちは「自分にもできる」という安心感から、意欲的に高度な表現に挑戦するようになりました。私はハンコをてぬぐい（発色が今ひとつですが）に押しさせていますが、その細長い形は、連続したハンコのながれを表現しやすいと感じます。消しゴムは百均で購入し、てぬぐいはサラシ布を切れば格安です。研修で使ったプレゼンが必要でしたら送ります。お試しください。



パステルアート

魚沼市立小出中学校 井口 かほり

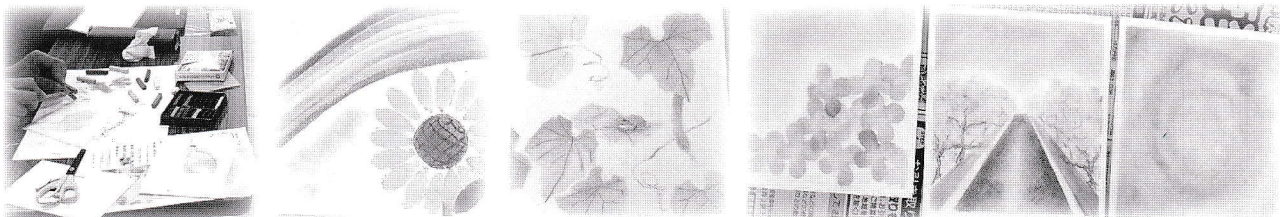


令和4年8月1日、夏季研修会が行われました。手軽に楽しく絵が描ける教材としてパステルアートを行いました。パステルアートは、パステルの粉を伸ばすだけで描けます。混色も容易でオリジナルの色作りができます。美しいグラデーションが簡単に描けるので、どの色を組み合わせようかワクワクします。必要に応じて紙でモチーフの型を作って利用することができ、あまりデッサン力が影響することがないので、自分がイメージした表現にして達成感を味わうことができます。

当日は保育園・小学校・中学校から34名の方が参加しました。創作に夢中になり、1時間半で各自が3枚の作品を制作しました。携帯電話の思い出の写真をしながら風景画を描く方、奥行きのある表現や光あふれる表現など工夫する方。私自身も学ぶ機会となりました。完成した作品は互いに見せ合い、作品のよさについて話し合ったり表現の方法について聴き合ったりして、対話的に学び合う姿が見られました。

研修会は、よりよい題材の開発につながる機会になったと思います。

参加して下さった方々に感謝します。



第61回関東甲信越静地区造形教育研究大会 兼 第34回新潟県美術教育研究大会における実践報告

長岡市立川崎東小学校 堀田 祐嗣



- 1 大会テーマ 「未来につながる学びをひらく造形教育の今」
- 2 期日 令和4年11月11日(金) 13:20～16:50
- 3 当日の日程
 - (1) 開会セレモニー
 - ・実行委員長あいさつ 13:20～13:25
 - ・基調提案 13:25～13:40
 - (2) 記念講演
 - ・講師 末永 幸歩 様 (美術教師/東京学芸大学個人研究員/アーティスト)
 - ・演題「当たり前を疑うことから創造的な探究がはじまる」
 - ・13:50～15:00
 - (3) 校種別分科会
 - ・提案① 15:10～15:40
 - ・提案② 15:45～16:15
 - ・提案③ 16:20～16:50
- 4 実践発表 校種別分科会提案③にて、中越美術教育研究会会員の実践発表
 - ・提案者 堀田 祐嗣 長岡市立川崎東小学校
 - ・助言者 津端 朝宏 長岡市立黒条小学校
 - ・司会者 村山 裕之 十日町市立中里中学校

5 実践紹介

■ 提案発表内容の要旨

創造的な造形活動を目指すためには、表現活動と鑑賞活動が相互に関連し合い、自分の思いや願いを広げながら意味や価値をつくりだしていくことが大切だと考える。表現と鑑賞の一体的指導、「つくる」と「みる」を連続的に展開しながら、それぞれの能力を高めることができる題材を追究してきた。

本実践は日本・西洋を問わず、様々なジャンルの名画作品を鑑賞し、その作品の造形的なよさや美しさに触れることを通して、一人一人が自分なりのイメージをもちながらのびのびと表現していく題材である。



■ 題材の内容

- (1) 題材名 「その名画の続きは…」(6学年・全13時間)
- (2) 題材の内容 (授業実践)

① 名画の中から自分のお気に入りを選ぶ (1時間)

西洋と日本の美術作品、合わせて約100点の名画作品を床に並べ、仲間とともに鑑賞する。その中から自分が気に入った作品、または自分がその名画の続きを描くことができそうな1点を選択する。名画の形や色、表現方法に着目させ、自分が魅力的と感じる部分を仲間と伝え合いながら、鑑賞活動を行う。

② 名画の続きとなる世界を想像する (2時間)

まず、作品の形や色、表現方法を基に、その作品の上下左右どの部分(空間)につなげて表現するの考える。その後、ワークシートに自分が想像した世界のストーリーを簡単な文章で書く。そして、その想像した世界のイメージをスケッチブックに絵で表す。

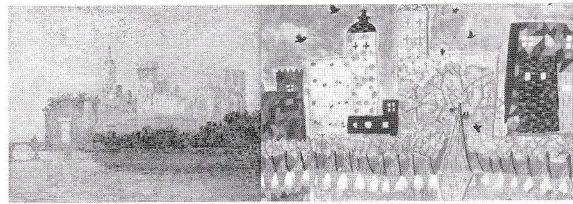


③ 名画と画用紙を並べながら下絵を描く（4時間）

自分が選択した名画作品を、縦または横に並べながら画用紙に下絵を描く。常に名画作品を並べて置くことにより、形や色、表現方法を意識しながら自分の作品に表すようになる。必然的に作品の細かな部分までよく鑑賞することで、作者の思いや表現方法などを読み解きながら自分の表現に結び付ける。

④ 名画の表現方法を生かしながら表現する（3時間）

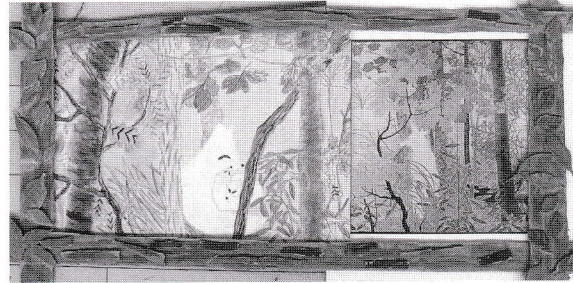
名画作品の色彩感や筆遣いなどの表現方法を生かしながら自分なりの表現の仕方を見付け、絵の具で表していく。その際に、それぞれが想像した世界のイメージがより具体的になるように、児童一人一人と対話をしながら想像を膨らませるよう支援し、その後の表現につなげていく。



ポール・シニャック「法王宮風景」

⑤ 完成した作品に合う額縁をつくる（2時間）

名画作品と自分が表現した作品をつなぎ合わせ、その作品のイメージに合う額縁を想像しながらオリジナルの額縁を作る。加工しやすい段ボールを素材とし、自分の好きな形や大きさに切ったり、色を付けたりしながら完成させていく。

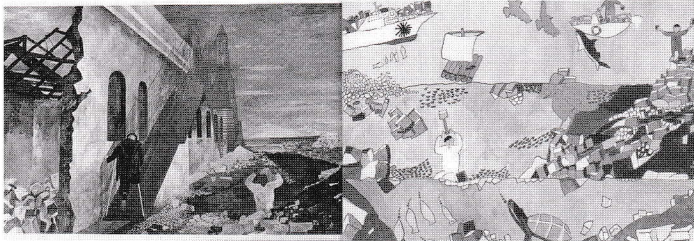


下村 観山「白狐」

⑥ 額縁を組み合わせて展示し鑑賞会を行う（1時間）

仲間の作品のよさや表し方の工夫について感じ取りながら鑑賞する。互いの作品をポジティブに批評し合うことで、見方や感じ方を広げていく。

(3) 児童の作品



左:ベン・シャーン「赤い階段」

右:A児作品「そうじの時間」

【A児の姿】

名画に描かれている内容をじっくり観察し、自分なりの世界を想像した。海のごみ問題と結びつけ、SDGsの観点から、ごみが海の生き物たちに影響が出ていることを訴えかける表現にしたいという思いで表現した。



左:アンリ・マティス「大きな赤い室内」

右:D児作品「赤い部屋とおばあさん」

【D児の姿】

赤を中心としたはっきりした色に惹かれて、この名画を選んだ。最初は余白が多く、内容の薄い作品だった。表現の幅を広げるために対話をしながら想像を膨らませていった。絨毯の模様や階段の花、キャンバスに描く内容などを共に考えていくことで、表現に深まりが出た。

■ 成果と課題

〔成果1〕模写ではなく、想像力を大いに働かせる題材

児童は名画の形や色、表現方法を基に想像力を働かせながら自分なりの世界をつくりあげ、楽しみながら表現する姿が見られた。特に、絵を描くことに苦手意識をもっている児童にとっては、ゼロから構成を考える訳ではないため、取り掛かりやすい内容となった。また、意識的に名画作品の色や表現方法に触れることで、試行錯誤しながら技法を習得しようとする姿も多く見られ、技能を高めることにつながった。

〔成果2〕表現と鑑賞を一体化させるための環境づくり

常に表現と鑑賞が行ったり来たりしながら学習が進んでいく展開にした。鑑賞においては、自分の選んだ名画作品のみを鑑賞するのではなく、いつも仲間の作品を鑑賞できるような環境を整えた。授業が終わるごとに教室前の廊下に自分の作品を展示させ、製作途中の作品を誰もが自由に鑑賞できるようにした。これにより、授業時間外でも仲間の作品から刺激を受け、新たな発見をしたり新しいイメージが湧いたりするなど、創造性を高めるために、効果的であった。

〔課題〕児童の主体性を掻き立てるような名画作品の精選

今後は様々なジャンルの名画作品を取り扱うだけでなく、創造性を高めることにつながる作品を精選し、児童に提示していきたいと考える。また、地域にある美術館の作品なども活用し、身近にある美術作品に愛着をもたせるような取組も考えていきたい。

中越教職員美術展2022 ～第28回～

- 会期／令和4年5月11日(水)～15日(日)
- 会場／長岡市美術センター(長岡市立中央図書館2階)
- 主催／新潟県中越美術教育研究会

- 後援／長岡市教育委員会 新潟日报社
一般財団法人 新潟県教職員厚生財団
公益財団法人 日本教育公務員弘済会新潟支部

No.	題名	出品者
1	寒ざらし妙高	F50 池上 秀敏 元教職員
2	福島潟遠望	F10 結城 和廣 元教職員
3	子どもの頃	F0 藤本 市郎 刈羽・刈羽中
4	雨降るーいそげ我家へ	90×110 藤本 市郎 元教職員
5	狐の夜祭りー高柳町	78×89 藤本 市郎 元教職員
6	北のセメント工場	F100 石川 吉郎 元教職員
7	描く人	F100 高井 将行 新潟向陽高
8	黒い静物	F8 丸山 一夫 長岡大手高
9	大学生	F50 阿部 勝則 十日町総合高
10	夏と秋	変形40号 三上 祥司 元教職員
11	白寅の佇み	A3 三上 祥司 元教職員
12	八海山 1/4 2/4	56×44 野村 宏毅 元教職員
13	八海山 3/4 4/4	56×44 野村 宏毅 元教職員
14	明星山爽秋	F12 丸岡 昭子 元教職員
15	軽やかに	F10 丸岡 昭子 元教職員
16	時の狭間 2022-1	51×51 中嶋 均 元教職員
17	時の狭間 2022-2	F20 中嶋 均 元教職員
18	描き初め『静かな朝』	F10 濁川 徳一 長岡・十日町小
19	描き初め『川霧の朝』	F10 濁川 徳一 長岡・十日町小
20	2021年の自画像 I	39.3×27.2 峰村恵利子 長岡・越路中
21	2021年の自画像 II	39.3×27.2 峰村恵利子 長岡・越路中
22	鎮魂と復興	71×47×2枚 高橋 淳一 長岡・刈谷田中
23	モフモフ	71×47×2枚 高橋 淳一 長岡・刈谷田中
24	種まく人	F8 金澤 健志 近代美術館
25	東港近くの夕日	F30 南雲 学 十日町ふれあいの丘支援
26	ガードナー	4つ切り画用紙 津端 朝宏 長岡・黒条小
27	圭	4つ切り画用紙 津端 朝宏 長岡・黒条小
28	長嶋	4つ切り画用紙 津端 朝宏 長岡・黒条小
29	清宮	4つ切り画用紙 津端 朝宏 長岡・黒条小
30	大谷	4つ切り画用紙 津端 朝宏 長岡・黒条小

No.	題名	出品者
31	春 ～山本山高原より～	F8 岡本 真梨 長岡・南中
32	熊	B4 岡本 真梨 長岡・南中
33	夏の輝き	A5 池田 義広 附属長岡中
34	New Year's card 2022	A4 池田 義広 附属長岡中
35	プリムラ・ジュリアン	A5 五十嵐由美子 燕・小池小
36	ゆめ3	A5 目黒 由美 長岡・上組小
37	雪待ちの林	A5 鰐淵紀美子 小千谷・東山小
38	糸 ～丹地陽子画集より～	A5 村山 裕之 十日町・中里中
39	あの日 君と見た夏空	F30 北村 和則 中越高
40	河	F30 北村 和則 中越高
41	宙ーコスモスー	F50 溝口 敏美 長岡高
42	紡ぐ	43.5×58.5 石黒 裕子 元教職員
43	雨	S40 田中 大志 長岡・長岡聾
44	フレアー	140×350 田中 幸男 小千谷西高
45	夢	80×85×40 齊藤 博文 見附・西中
46	月夜の散歩	20×28×10 齊藤 博文 見附・西中
47	Night story	50×70 小沼智恵利 ギャラリーみつけ
48	或るもの I	37.5×46.5 小林 涼子 小千谷・総合支援
49	或るもの II	36.0×44.0 小林 涼子 小千谷・総合支援
50	Reflection / 夏	72×50 中村 信 見附高
51	淡い影	72×50 中村 信 見附高
52	つくし	18×13 佐藤 和輝 十日町・松代小
53	Silent night	10×15×5 齊藤 博文 見附・西中
54	ゆらぎー I	100×120×80 霜鳥 健二 元教職員
55	ゆらぎー II	100×120×80 霜鳥 健二 元教職員
56	思い出	50×37×20 堀田 正 北陸学園
57	睦若 I	100×100×10 中村富美子 柏崎・東中
58	睦若 II	100×100×10 中村富美子 柏崎・東中

『中越教職員美術展2022』について

中越教職員美術展 実行委員長 村山 裕之



今年度、会場にしていた長岡市美術センターの一部改修工事が夏から始まるため、28回展は会場が空いている春に実施を決めました。

何かと忙しい年度始めの運営は難しいと思いましたが、昨年度の新型コロナ感染の第6波により中止にした27回展をベースにすることで運営上の負担を軽減させながら進めることができました。今回の応募者数は36名で出品数は58作品でありました。この時期は公募展等も多く、時期が重なっていた先生方もおられました。皆さんの協力のおかげで、例年とほぼ変わらぬ出品数と質を保つことができました。年度初めの忙しい時期に作品の搬入・展示・搬出にご協力いただいた全ての先生方に、本当に感謝しております。

ゴールデンウィーク明けの会期中は、心配していた感染の波もなく、麗らかな春の日に、529名もの方々からご来場いただき、盛況の中で開催できたことを大変嬉しく感じています。図書館に本を借りて来た方や、展覧会を楽しみに来

られた方など、来場のきっかけは様々ですが、作品の前でじっと佇んだり語り合ったりしている姿を見ていると、開催してよかったという実感が湧きました。特に、最終日に来られたご年配の方の出来事が心に残っています。その方は、上越から出品してくださった中村先生の半立体作品を気に入って見入っていました。その時、作者である中村先生がおいでになり、その方が作者と分かると、ご年配の方は感動したことを作者に熱く語っていました。見ず知らずの他人同士が一つの作品をきっかけに繋がる、まさに一期一会の機会を設定できて嬉しく思いました。今後も、作品と鑑賞者の間に生まれる癒しや励ましといった共感、または新たな影響を与える場となることを願っております。

最後に、特殊なケースに対してご理解いただいた目黒会長をはじめとする理事の皆様、大変な時期に出品に携わっていただいた皆様、事務局のご尽力並びに葵屋画材店様からの多大なるご協力に、心から御礼申し上げます。ありがとうございました。